胃がん検診を受診される方へ

胃がんは、全国のがんによる死亡数割合の上位に位置しています。
Ｘ線撮影による胃がん検診（バリウム検査）は、厚生労働省が推奨する、死亡率減少効果が認められた検診です。この検診を定期的に受診することが重要です。

受診の際に気をつけていただきたいこと

おひとり４分程度かかる検査です。

１ **飲食** ： 検査前日の夜９時から検査終了までは**食事・飲酒をしないでください。**
（検査の10時間前までに食事を済ませてください。）

・当日は、水や白湯は検査の２時間前までに200ml以内なら飲んでも差し支えありませんが
お茶・コーヒー・牛乳・ジュースは避けてください。
・当日は、検査終了まで**喫煙をしないでください**。また、ガムや飴なども避けてください。

２ **お薬** ： 検査当日のお薬について

・**心臓病・高血圧・抗てんかん**のお薬　：　食後のお薬であっても、検査の２時間前までに、200ml以内の水または白湯で**必ず服用**してください。
・**糖尿病**のお薬　：　検査前は、**お薬の服用やインスリン注射はしないでください**。
・その他のお薬　：　主治医とご相談のうえ、検査２時間前までか、検査後に服用してください。

３ **服装その他** ： 検査を受けやすい服装でおいでください。

・感染予防等のため、**検査着の貸し出しはありません**。あらかじめ撮影できる服装（寒い日などは上着を着て）でお越し下さい。また、**脱衣かごはありません。脱いだ衣服を入れるマイバッグをお持ちください。**
・ボタン、ホック、ファスナーなどの**プラスチックや金属のない**無地のもの、ウエストがゴムのものなどを着用してください。
・腕時計やアクセサリー類は、撮影の妨げ、紛失、破損の恐れがありますので外してください。
なお、外したアクセサリーなどの**貴重品はご自分で管理をお願いします**。
・**入れ歯安定剤**は、検査に影響することがありますので、検査が終了するまで使用しないでください。
・検査時に低血圧を避けるため、前日夜９時以降は大量の汗をかくような運動などは避けてください。

同意書にご記入をお願いします

胃がん検診の注意点

１ 病変について
胃がんをはじめ、この検診によってすべての胃の病変を発見できるとはかぎりません。 病変の場所や大きさによって画像の確認、診断が困難な場合（偽陰性）があります。また、病変がなくても精密検査が必要と判定される場合（偽陽性）もあります。

２ 検査の有害事象（好ましくないまたは意図しないあらゆる医療上の事柄）について
①バリウムの誤嚥（ごえん）：誤ってバリウムが気管に入ると呼吸が苦しくなり咳き込みます。その結果、肺炎を起こすことが あります。普段からむせやすい方は特に注意が必要です。
②アレルギー：お飲みいただくバリウム・発泡剤・下剤などにより、じんましん、かゆみ、息苦しさ、手足が冷たくなるといったアレルギー症状があらわれることがあります。まれにショック状態となり救命措置が必要となることがあります。
③腸への影響 ：バリウムが腸で固まり、腸閉塞、虫垂炎、憩室炎などとなることがあります。その結果、まれに（※101万人中3人：0.00029%）腸に穴が開いてしまうこともあり、重篤（じゅうとく）な状態となった場合は救命のため手術が必要となることもあります。
④脱水による血圧低下など：この検査は空腹時、体の水分が不足している状態で行いますので、立ったりした時などに血圧が低下し、めまいや気分不快となることがあり、まれに失神することもあります。過去の検診で症状があらわれなかった方でも、当日の体調などにより症状があらわれることがあります。※間接Ｘ線検査による胃集検における偶発症

３ Ｘ線被ばくについて
Ｘ線撮影による胃がん検診の被ばく線量は、約0.8mSv（ミリシーベルト）で１年間に自然界から受ける被ばく線量の４分の１程度です。

※中面も必ずご確認ください。